

<赤旗電子版より>

立民が任命拒否迫及 枝野氏「首相が偏り強めている」

2020年11月5日【2面】

4日の衆院予算委員会で、基本的質疑が行われ、2日に続いて菅義偉首相による日本学術会議会員候補6人の任命拒否に対して相次いで追及がなされました。

立憲民主党の枝野幸男代表は「日本学術会議からの推薦の通り任命しなければならないわけではないというのが政府の一貫した考えだ」と述べていることを指摘。枝野氏は、1983年の日本学術会議法改定時に中曽根康弘首相(当時)が「形式的任命」と答弁していたことをあげ「当時、『必ず推薦の通り任命しなければならないわけではない』というのは記録に残っているのか」と質問しましたが、政府は記録があると答えることはできませんでした。

また、学術会議の会員構成について、菅首相が「出身や大学に大きな偏りがある」と攻撃したことに対し枝野氏は「偏りを強めるような人事をしている」と批判。「政権に都合の悪いことを言うと『排除される』と受け取るのが普通ではないか」と述べました。



立民の辻元清美副代表の質疑では、菅首相は6人を排除したことについて、決裁前に杉田和博官房副長官から報告を受けていたことを明らかにしました。

菅首相は、学術会議から8月31日に105人の推薦名簿が提出された際に、「(加藤勝信)官房長官や官房副長官を通じて懸念や任命の考え方を内閣府に伝え、内閣府が9月24日に決裁を起案し、28日に私が決裁した」と説明。名簿から6人が除外されていることについては「24日に99人の任命(の起案)が上がってくる前に聞いている」と述べました。辻元氏の誰から聞いたのかとの質問に「たぶん杉田(官房)副長官だと思う」と語りました。